

2022年度 事業報告

2022年4月11日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人クローバーの会アットやまがた

1. 事業の成果

事業実施により、さまざまな困難を抱える若者たちが不名誉感や傷つきを感じることなく、気軽に立ち寄ることが出来る敷居の低いフリースペースの活動ができた。加えて、そこからステップアップする形で地域食堂（子ども若者食堂「みどり町こどもひろば」）を開くことができ、参加する若者の活躍の場を創出することも出来た。また親の会で当事者家族の孤立を防ぎ、家族間の雰囲気をやわらげたり、凝り固まった価値観を緩めたりすることで、辛い状況にある方に支援を届けることが出来た。

この3つの活動がお互いに入口や出口となり、それぞれの活動を行ったり来たりできる作りにできたことは、参加者の足場を増やすことにもなった。

親の会の立ち上げ支援は、二つの市町村で実施。白鷹町『親の会@しらたか』、長井市『みちくさクラブ』を立ち上げ、現在も地域の悩める親たちの居場所となっている。また、親の会の後方支援として西川町『おれんじルーム』の協力団体として、不登校についての連続講座を開催した。県内の親の会のネットワークが強化されただけでなく、その地元の教育委員会などとの関係づくりも構築できた。県内に相談窓口、支援団体が増えたことは孤立する家族にとって大きな助けとなった。

また、コロナ禍で困窮する子育て世帯、とりわけひとり親家庭に重点を置き「フードパントリー」（食料無料配布）を開催することが出来た。それをきっかけに、ひとり親家庭をその先の支援につなぐ新たな活動の展開（就労支援）につながった。

昨年度に引き続き、若年女性の居場所づくりや衛生用品配布を行い、コロナ禍による女性の孤立感にも支援を届けることが出来た。特にご飯の会はニーズがあり、食を通じた相談の場、仲間との出会いの場としての役割を担うことが出来た。

2年目を迎えた小中学生の居場所づくり「フリースクールよつば」は、定員いっぱい子どもたちで運営をすることが出来ている。

新たな事業として山形市民を対象とした「子ども見守り宅食」を手探り状態ではあったが、実施することができた。

以上のような事業を通して、多様な背景をもつ、子ども・若者たち、その親たちの困りごとやニーズをキャッチし自立支援に導くことができた。

- ①「不登校・ひきこもりの相談窓口の開設」事業
- ②「子ども・若者に居場所を提供するフリースペース・フリースクールの運営」事業
- ③「不登校・ひきこもりの家庭を対象とした親の会開催」事業
- ④「地域に根ざした親の会の立ち上げ支援」事業
- ⑤「地域住民への理解促進を目的とした学習会などの開催」事業
- ⑥「子ども・若者を中心とした地域食堂の運営」事業
- ⑦「拠点型学習支援」事業
- ⑧「ひとり親、困窮する子育て世帯への支援」事業
- ⑨「コロナ禍における女性のつながりサポート」事業

※①～⑦は「令和4年度若者相談支援拠点設置運営事業」の業務委託（山形県しあわせ子育て応援部 女性・若者活躍推進課）により実施。②のフリースクール事業は、認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむの「だいじょうぶだよ！基金第4次助成」と自主財源にて実施。⑧は「カプコン 春の食品支援」「令和4年度 赤い羽根 ポスト・コロナ（新型コロナウイルス）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン」の助成金、「こども見守り宅食事業」の業務委託（山形市こども未来部こども家庭支援課）により実施。⑨は「令和4年度やまがた女性のつながりサポート事業」の業務委託（特定非営利活動法人山形の公益活動を応援する会・アミル）により実施。